

事例紹介

日本ASEAN交流年二〇〇三

『国際アニメ・マンガフォーラム』

文化庁長官官房国際課

文化庁では、ASEAN諸国在京大使館とともに、三月一日（月）～一六日（日）まで、東京・丸ビルにおいて、「日本ASEAN交流年二〇〇三」を記念した『国際アニメ・マンガフォーラム』を開催しました。

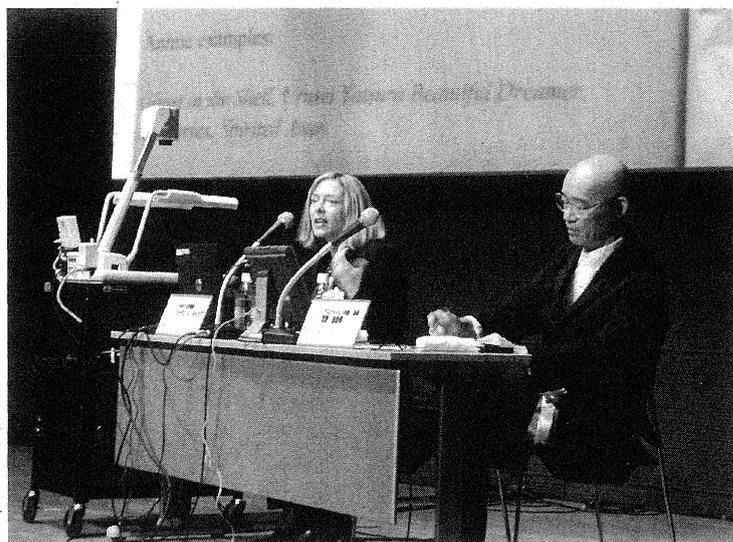
初日の三月一日（月）に、「アニメーション」越境する「個性」と「未来」と題した基調対談を、『機動戦士ガンダム』を手がけたアニメーション作家の富野由悠季氏と日本のアニメ文化に詳しい米国テキサス大学教授のスーザン・J・ネイピア氏を招いて開催し

たほか、日本やASEAN諸国のアニメ・マンガに造詣が深い著名人によるシンポジウムを行いました。

また、三月一日（火）には、ASEAN諸国から招へいた文化行政官およびアニメ・マンガ作家、編集者やASEAN諸国をはじめとする各国の在京大使館関係者などを対象に、日本のアニメとマンガの発展史や産業としての広がりについての「セミナー」を行いました。

会場である丸ビルの展示空間では、吹き抜けに三つの大型スクリーンを設置し、ASEANの文化、風景、マンガを各国ごとに編集した映像を最新技術で投影したほか、日本やASEANのアニメーション作品三〇点をテレビモニターで放映するとともに、マンガ原画一四二点を展示しました。そこでは、めったに目にするのでできないASEANの作家の作品に足を止め見入る光景が見られるなど、来場者の関心の高さがうかがえました。

このフォーラムには基調講演、シンポジウム、セミナーなどに約八五〇人の聴衆が詰めかけたほか、展示スペースにも多くの来場者がありました。



基調講演

今回のフォーラムは、いまや日本の現代文化の代名詞といっても過言ではないアニメ・マンガが、ASEAN諸国に与えた影響力と、ASEAN諸国におけるアニメ・マンガの発展を知る非常に貴重な機会であったとともに、世界でアニメ・マンガ文化が活発になっていくのを認識し、日本が世界を主導する立場にあることを改めて確認する機会となりました。

今後もアニメ・マンガといった身近なテーマを通じた文化交流を推進することで、相互文化の理解の促進に役立てていきたいと思えます。



展示会場（丸ビル1F）